

# 令和2年度 活動報告

砂川市地域おこし協力隊（農作業支援）

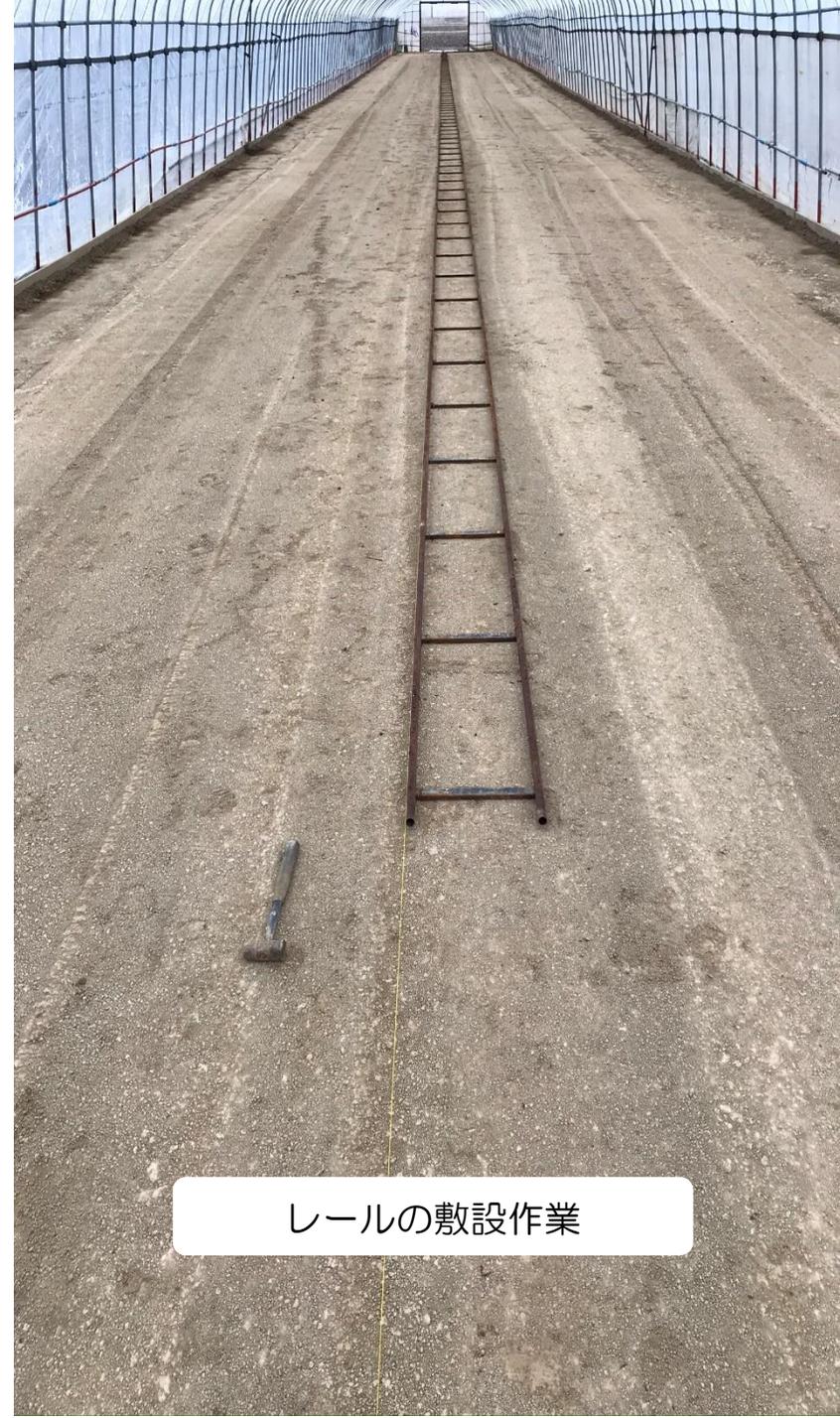
村田 大地



耕運作業



振動ローラによる転圧作業



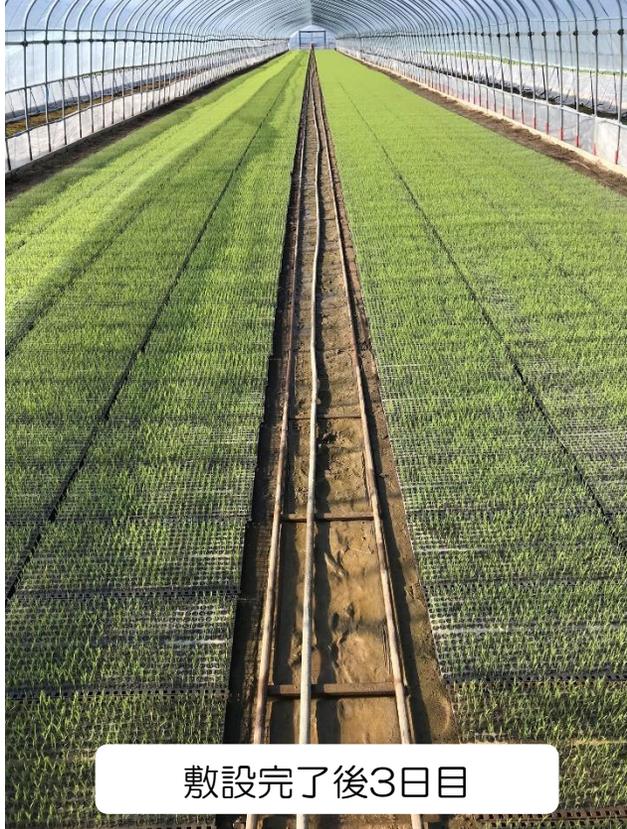
レールの敷設作業

4月度は耕運作業  
ハウス内の種まき準備

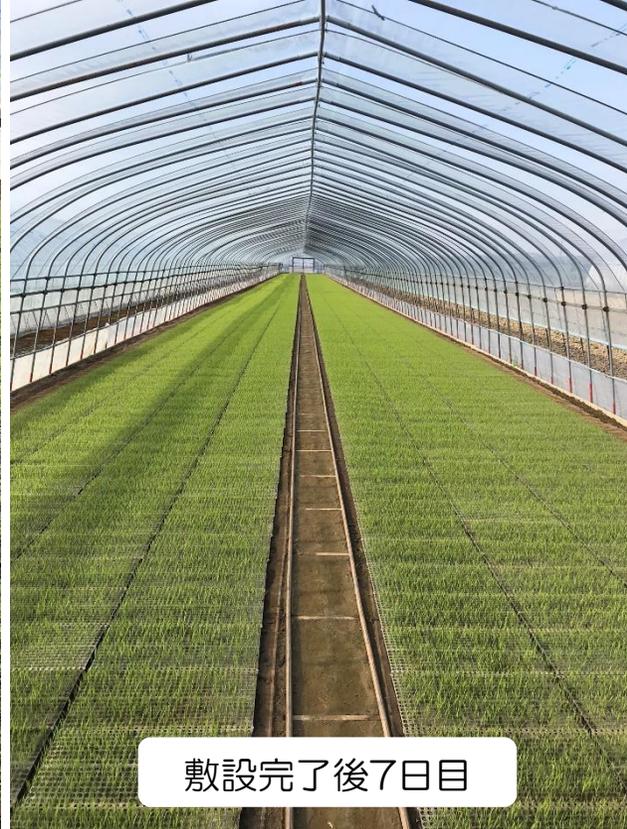
- ・今年度は雪解けが早かったため、4月から田んぼの耕運作業を行うことが出来ました。
- ・ハウス内の種まき準備では、今年度よりハウスを新設した箇所を平らにするのにとても苦労しました。



敷設作業



敷設完了後3日目



敷設完了後7日目



敷設完了後14日目

## 5月初旬は種まき作業

- 敷設作業は早朝から行い1日約2000枚を目標に行います。
- 敷設完了後3日に芽が出始め14日後には芽が出そろいます。
- 今年度は育苗管理を行ったのですが、苗の成長スピードが思っていたよりも早く驚きました。



鉄車輪



しろかき作業前



しろかき作業後

## 5月下旬は田植えに向け しろかき作業

- ・しろかき作業はトラクターに鉄車輪を装着して行います。鉄車輪を装着することで地面との接地面積が大きくなり、快適にしろかき作業を行うことができます。
- ・しろかき作業には荒がき作業と仕上げ作業があるのですが、昨年度は荒がき作業をメインに、今年度は仕上げ作業をメインに任せられました。



育苗完了



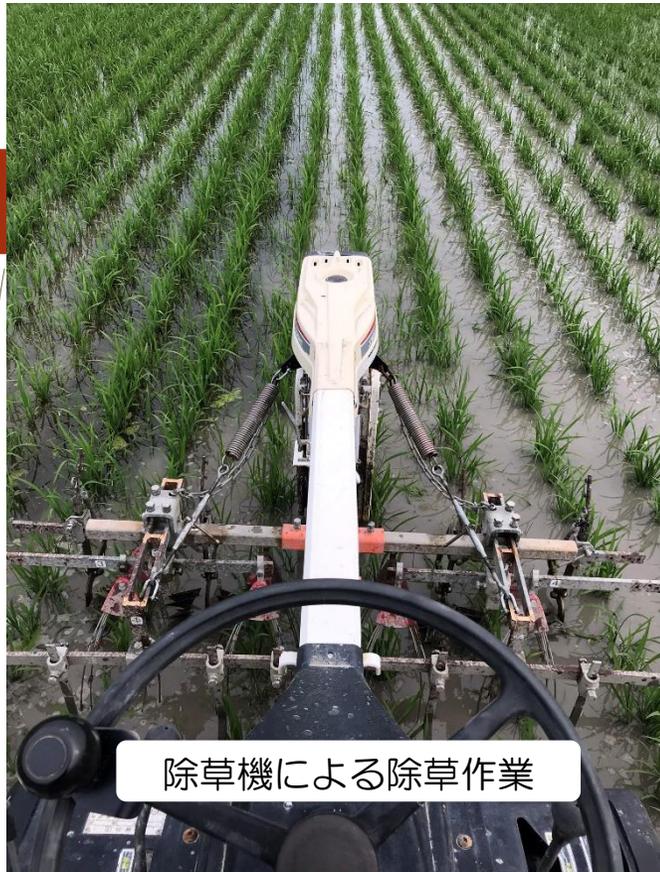
移植作業



移植作業完了

5月下旬から6月上旬に  
かけて田植え作業

- 今年度の田植え作業は雪解けの速さが影響し、昨年よりも早くから始めることが出来ました。
- 3年目になる今年はまっすぐに移植する事に加え、いかに効率的に作業出来るかを意識し作業に取り組みました。



除草機による除草作業



除草作業後



あぜ道除草作業

## 6月度・7月度は ほ場管理作業

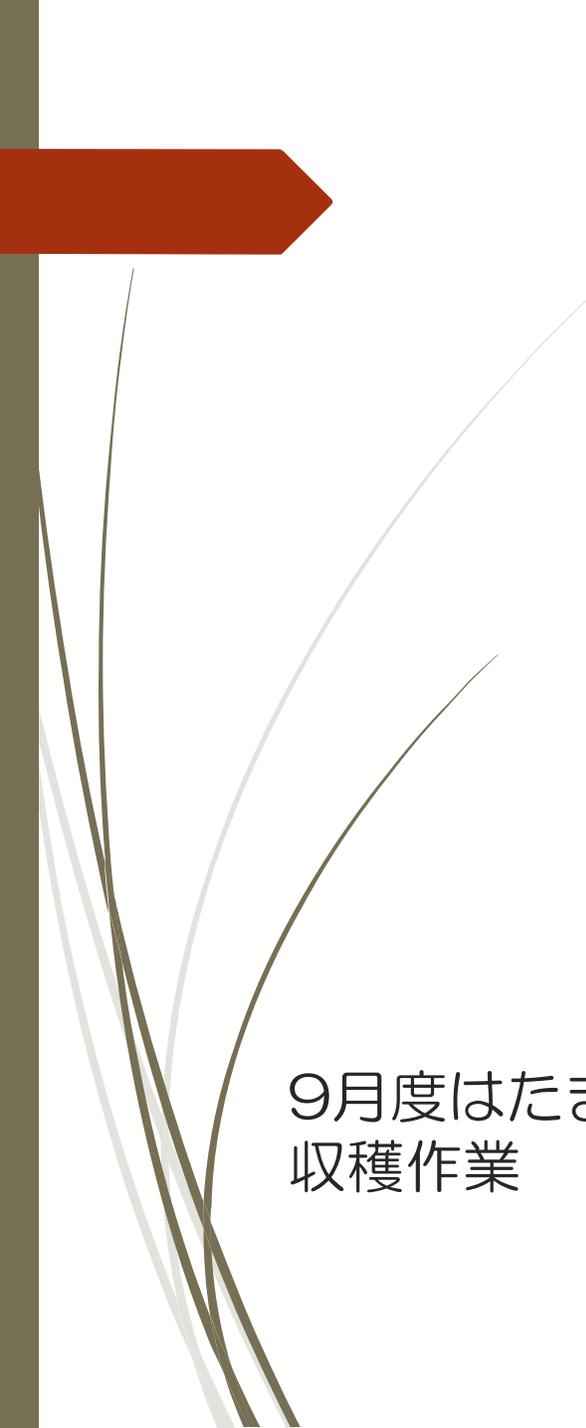
- ・今年度は新型コロナウイルスの影響により各種研修等が開催されなかったため、ほ場管理作業を去年よりも重点的に行いました。
- ・高度クリーン米等の減農薬米では除草剤が使うことが出来ないため、ほ場内に雑草が生えてしまった場合は除草作業を手作業か、写真の除草機により除草を行います。

## 8月度は農薬散布用 ドローンによる防除作業



ドローン・プロポ

- ・昨年度同様、市内の農業者4名が共同でドローンによる防除作業を行っている渡辺機械共同組合に同行し、作業を行いました。
- ・今年度はドローンの操縦免許を取得したのでオペレーターとナビゲーターを中心に作業しました。
- ・実際にドローンで農薬を散布するのは初めてで、緊張のあまり効率的な散布がはあまり出来なかったため、来年度の課題となりました。



## 9月度はたまねぎ 収穫作業

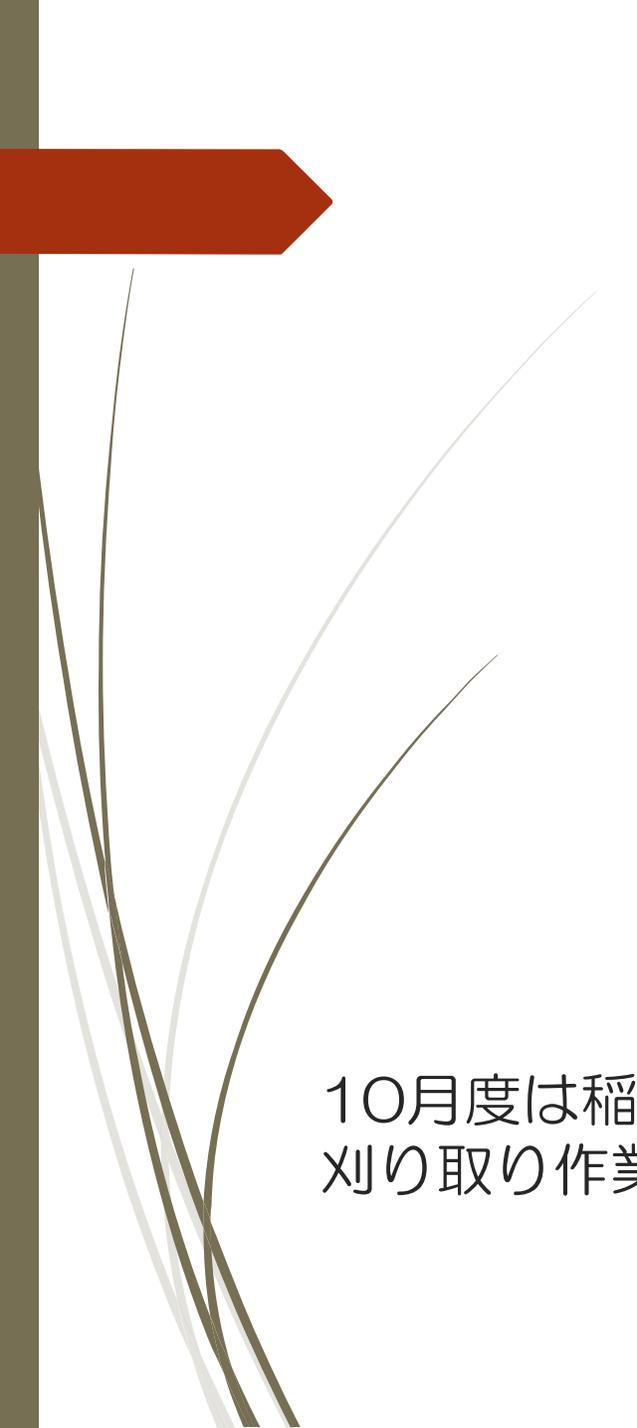


積み込み作業



積み込み作業完了

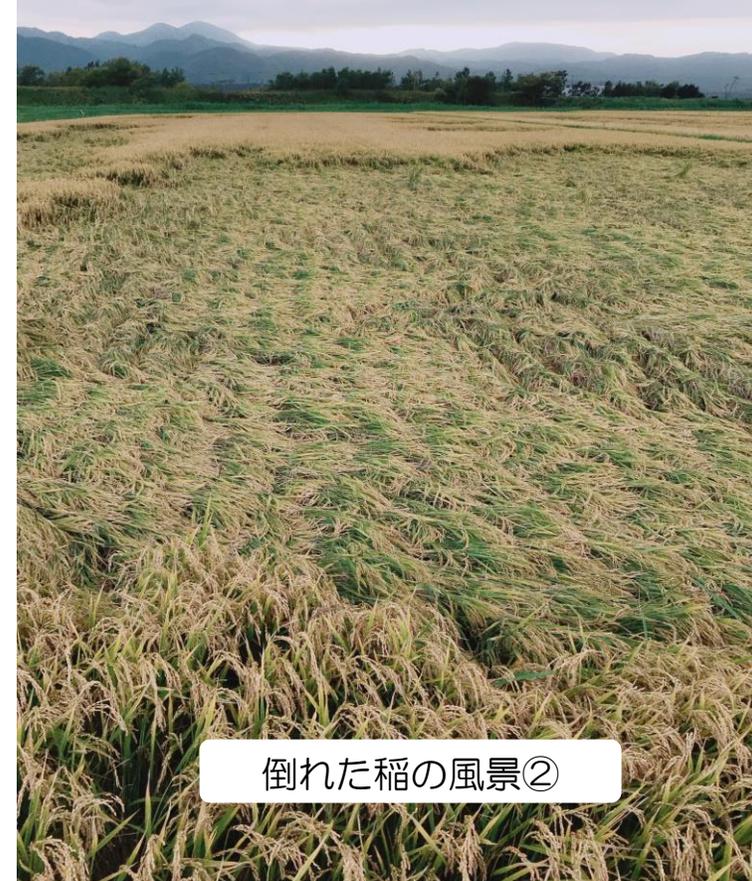
- 2月、3月に播種作業をしたたまねぎの収穫を行いました。
- 今年度は取得したフォークリフト作業免許を活用し、コンテナの積み込み作業をしました。3段目の積み込みは難易度が高く最初はうまく積み込めなかったのですが最終的にスムーズに積み込みを出来るまでに上達しました。



## 10月度は稲の 刈り取り作業



倒れた稲の風景



倒れた稲の風景②

・今年度は、ほ場が乾いていたので地盤の状態は良好だったのですが、収量が多かったため、穂が重く稲が倒れている箇所が多数あったため刈り取りが困難でした。

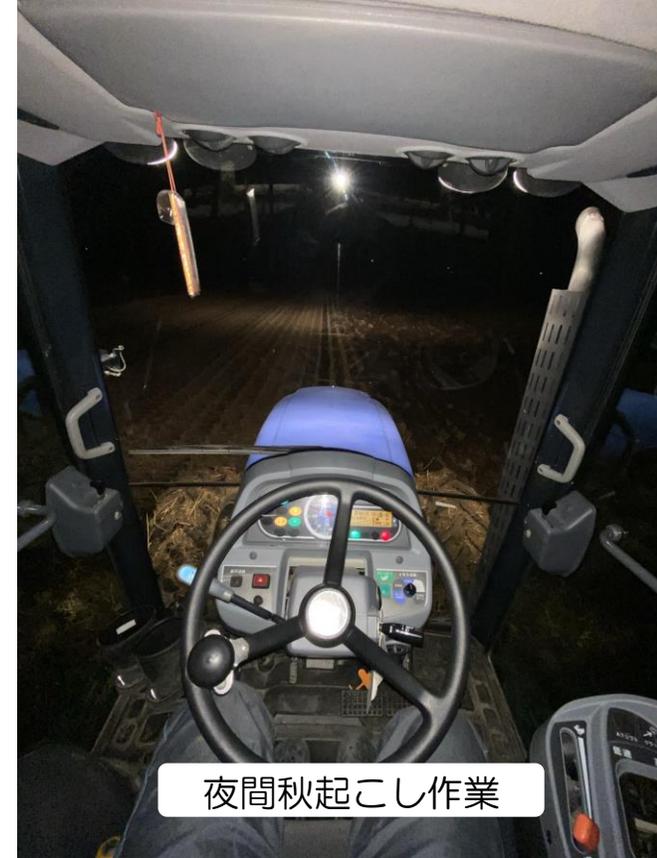
・この場合、ほ場際から低速で刈り取る必要があり、作業が思うように進まなくなるため、稲は倒さない程度に育成しなければならないことを身に染みて感じました。



全自動ポット洗浄機



洗浄完了ポット

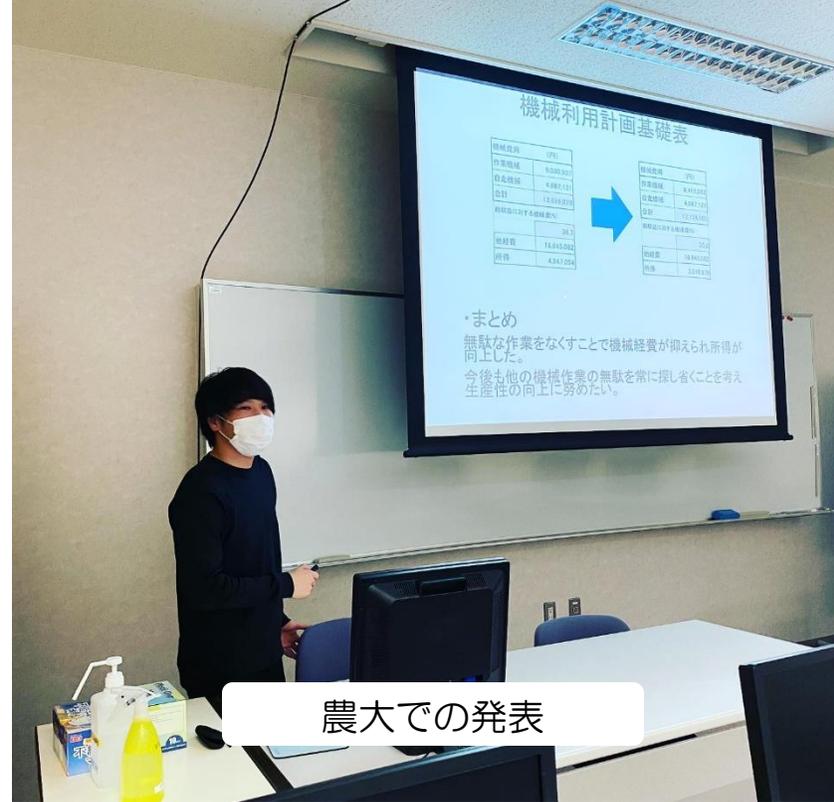


夜間秋起こし作業

## 稲刈り後は後片付け 秋起こし作業

- 稲刈り後は移植したあとのポットの洗浄作業等を行います。
- 全自動洗浄機を使用していますが、ポットの枚数が約15,000枚と大量なため、かなりの時間を要します。
- 秋起こし作業を行うと、稲わらの分解が早く進み、しろかき時に稲わらが浮いてこなくなるため、雨などが多い時期ですが可能な限り、夜間なども行います。

冬季期間は  
農業研修受講と  
アーク溶接免許取得



農大での発表



溶接の実技講習

・農大研修では1、2日目は農業機械装備及び利用状況の現状について把握を行い、機械化作業体系図の作成を行いました。現在の利用状況を知ることによって、これまでに行ってきた作業ペースが標準かどうかなど様々なことを洗い出すことが出来ました。最終日3日目には作成した作業体系計画図をもとにシミュレーションを行い、作業体系の改善計画を行い、パワーポイントで資料を作成し発表を行いました。

・アーク溶接講習では、アーク溶接に関する知識、電気に関する基礎知識、アーク溶接装置に関する知識、アーク溶接関係法令について学びました。実技講習では実際に半自動溶接機、手溶接機を使い鋼鉄を溶接し、溶接技術を学びました。これまで自分のしていた溶接知識、技術が間違っていたことに気付くことが出来ました。

# 地域おこし協力隊(農作業支援) 3年間を終えて

- 3年間、地域の農業者と農作業支援を通して関わる事が出来て、就農に必要な横の繋がりを深く広く築く事が出来ました。
- 自分が作る作物以外の農産物の栽培過程を学ぶ事が出来たので、水稻以外を営農している農業者の方への理解を深めるきっかけが出来ました。
- 様々な農業者のもとに農作業支援に行くことにより、使用したことのない設備や機械、農業技術を身につける事が出来ました。
- 地域おこし協力隊の制度により砂川市に研修費等を負担していただけたので、就農に要する様々な資格の取得や、農業大学校等で農業研修が受講でき、多種多様な農業知識、技術を学ぶ事が出来ました。
- 地域おこし協力隊で活動したことで、新規就農のための最高の準備期間になりました。